

令和 元 年度（平成 31 年度） 学校経営計画及び学校評価

1. めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性をはぐくみ、社会に貢献できる青年を育成する」という『建学の精神』のもと、学校教育を通じて地域社会からの信頼や期待に応えられる学校、生徒が何歳になっても誇りを持って語れる学校、教職員が生徒の満足を自らの喜びにできる学校づくりをめざす。

【生徒像】

- お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけ、責任ある行動がとれる生徒
- 国際社会において活躍するために、たくましく生きる力を身につけた生徒

2. 中期的目標

「基本的な生活習慣を確立および大学進学実績の向上」という重点目標の達成をめざし、各部署・各学年で4月当初には活動方針を策定する。できる限り目標を数値化し、その目標を達成するための具体的な方策を立案する。12月に進捗状況、3月に目標達成状況（総括）を校務会議・職員会議で報告し、次年度への課題を明確にし、R - PDCA サイクルを確立させる。

1. 生徒指導を基盤にした学習指導と進路指導を確立する。

(1) 学力向上と進路実現

生徒が6年間の中で自らの進路目標を持ち、自己実現できる進路を獲得できるよう取り組む。

ア. 進路指導に即した学習指導を展開し、学力を向上させて希望する進路を実現させる。

イ. 教科会議を充実させ、授業内容の点検や指導法の研究を行い授業力向上に取り組む。特に、高大接続改革を見据え指導法の工夫改善を行う。

ウ. 前期課程の段階から学問探究団「RYS」（論より証拠）や総合的な学習の時間「学芸ESD」の取組みを通して、自分の進路に対する意識を向上させる。前期課程の3年生でどの進路を選ぶことがふさわしいかを考えさせ、後期課程の4年生から文理選択を行う。

エ. 自学自習の習慣を身につけさせ、自己の進路を自らの力で切り開く姿勢を育成する。

(2) 基本的な生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的な生活習慣の確立」である。すべての教育活動を通じ「素直に人の話を聞ける生徒」「挨拶のできる生徒」「ルールを守れる生徒」の育成に努める。

ア. コミュニケーション能力を育成し、良好な人間関係を構築することで、学校生活への満足度を高める。

イ. いじめを許さず、生徒全員が安心して登校できる学校づくりをめざす。

ウ. 校内および通学途中における服装の乱れをなくし、マナーを守ることのできる社会性を育成する。

(3) 社会性・協調性の育成

少子化・核家族化の影響で親の過保護・過干渉の中で育ってきた生徒たちは、自己中心的な性格になりがちであり、協調性や耐性に欠ける面がみられる。建学の精神にある社会に貢献できる人間を育成するための取り組みを教育活動全体の中で実施し、自己肯定感を高めていく。

ア. 体育祭や文化祭等の行事や人権教育・土曜講座などの取組みを通して他者への思いやりや協調性、自分の意見を相手に伝える力（コミュニケーション能力）を育成する。

イ. 限られた時間や施設での部活動だが、その中で持続力や耐性を養い協調性を育成する。

ウ. 様々なボランティア活動を通して、社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成する。

2. 保護者に信頼される学校づくり

(1) 保護者への情報提供

校区を持たない完全6年一貫の本校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえる。

ア. 三者面談や保護者会・進路説明会を通して学校生活の様子や卒業後の進路を保護者とともに考える中で、信頼関係を築いていく。

イ. 進路ガイダンスを充実させ、生徒の進路希望を担当が十分把握し、保護者と生徒の願いを学校が受けとめることにより、信頼関係を築いていく。

ウ. 学校生活の様子をホームページ等で情報発信する等、開かれた学校づくりを進めることで保護者との信頼関係を深める。

(2) 危機管理体制の確立

地震や豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ発生するかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を構築していくことが求められる。

ア. 避難訓練を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備える。

イ. 学校として帰宅困難となる生徒が出た場合を想定し、保護者との連絡体制を整えていく。

【自己評価の結果と分析・学校協議会の意見】

<自己評価の結果と分析>

令和元年6月、次年度より募集停止となり生徒・保護者・関係者にお知らせをした。「令和2年度より生徒募集を停止する。なお、在校生については、卒業に至るまで中等教育学校を運営し、今後も充実した学校生活を送れるよう万全を尽くします。」

生徒・保護者から不安や不満が見られたが、丁寧に対応する中で、2学期に入ると表面上は落ち着きを取り戻した。これを契機に、生徒のモチベーションをアップさせやる気を引き出す取り組みを一層充実させる必要性を痛感している。

また、新型コロナウイルス感染の関係で、3月は臨時休業となり学年末考査を中止せざるを得なかった。

□ 学力向上と進路実現

- ・生徒と保護者の一番の願いは、学力向上と希望する進路の実現である。高校入試がなく生徒のモチベーションを6年間維持することは難しいが、やはり教員が生徒の興味関心を引く授業を展開し、生徒の理解度を高めていくことが一番大切である。また、6年間を見据えたカリキュラムを組んでいるが、途中でつまずいてしまうとそれが最後まで影響してしまうので、計画的に個別指導を充実させる必要がある。
- ・教員の授業力向上を目的として、生徒による年2回の授業評価アンケートを実施した。教員が経年比較をしながら自己分析を行い、課題を明確にして授業の工夫改善につなげている。分析結果を評価シートにまとめた後、提出させ指導助言を行った。また、教科会議で授業アンケートの分析を行い、教科別に評価シートを提出させた。分析した後、内容を整理してまとめることで、教員の意識は上がりつつある。また、教員の全般的な指導力向上を目指し、学習指導・生徒指導・校務分掌の3項目について「自己評価シート」を作成させている。4月に目標、8月と12月に進捗状況、3月に達成状況を提出させ指導助言を行っている。
- ・授業アンケートの「学力向上の実感」が、昨年と比べ前期7ポイント、後期課程では11ポイント増加しており、その効果が実感できている生徒が増えてきている。タブレットや電子黒板などのICT機器を活用した授業づくりが成果を挙げており、生徒の興味関心を引いていると考えられる。
- ・保護者による学校評価アンケートで「全科目にわたり学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げている」という問いに対し、全体の肯定回答は、44%で前年度より8ポイント増加している。全般にテストの点数等、目に見える成果を重視して回答する保護者が多いように思われる。
- ・保護者アンケート「進路指導は充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分寄与している」という問いに対し、全体の肯定回答は、学年が上がるにつれて増える傾向にあり、留保回答は学年が上がるにつれて減じている。高校入試を経験しない本校では、前期課程の段階から進路に対する意識の向上を図るよう指導していくことが大切である。また、6年間をかけて大学進学を目指していく中で、自分の将来を見据えることは重要なポイントである。教科の授業以外の「ESD」や「RYS」などの取り組みを通し、学年が進むにつれて将来の夢や進路について考える生徒が増えつつあると思われる。
- ・新大学入試改革の動向を見据え研修を深めるとともに、新学習指導要領（中学校R3年度全面実施、高校R4年度から年次進行で実施）に即した指導法の研究を進める必要がある。

□ 基本的な生活習慣の確立

- ・普段の生活の中で、大きな声であいさつをする、時間を守る、ルールを守る等、基本的な生活習慣の確立が大切である。その根幹にあるのが、人の話を素直に聞く、自分の気持ちを自制するという心の育成である。遅刻指導や生活点検などの取り組みを継続して行うとともに、定期的な二者面談を行い、さらに生徒理解に努める必要がある。
- ・保護者アンケート「子どもに獲得させたい資質」という問いの回答として、「学力・知力」に次いで「自主自律の姿勢」「協調性・社会性」「将来を切り開いていく力」「責任感」が上位を占めている。学力向上とともに豊かな人間性を培う指導を充実させる必要がある。前期課程では、「道徳」の指導を充実させることが望まれる。
- ・今年度も集団育成の観点を持ち生活指導を推進していくことを大きな目標とした。特に、前期課程では、毎週月曜日の朝礼時に前期集会を定例化したこともあり、生徒間の人間関係のトラブルが減少しており、成果が挙がっている。

□ 社会性・協調性の育成

- ・全校をあげての学校行事として、中等祭（文化祭と体育祭）を2日連続で実施した。特に、6つの学年を縦割りにした団を編成して取り組む体育祭は、学年を越えた一体

<学校協議会の意見>

□ 学力向上と進路実現

- ・募集停止になっても、在籍する生徒が卒業するまでしっかりと責任を持って面倒をみてください。
- ・これから先細りしていくが、行事や取り組みも工夫し生徒の満足度を上げるように努めてください。
- ・自学自習の習慣をいかに身に付けさせるか、全体の雰囲気作りが大切ではないか。管理自習室で夜遅くまで学習する生徒も増えてきているのは良いことだと思う。
- ・生徒のやる気をいかに喚起させるかがポイントである。前期課程は一人一台のタブレットを購入しているが、どういふ点で効果があったか分析してください。また、ICT機器の活用について研鑽を深めて欲しい。
- ・進路指導は、6年間を系統立てて、それぞれの学年でのポイントを明確にしているのは良いことである。
- ・市大医学部の合格者がでたが、ここ数年大学合格実績が低迷しているのではないかと。生徒の望む進路が獲得できるよう個別指導の充実が望まれる。
- ・今後、教員数も減る中でより効率的な指導が望まれる。授業アンケートの結果をしっかりと自己分析することで授業力向上につなげて欲しい。
- ・来年度は大学入試制度改革の動向を見据え、的確な進路指導をして欲しい。

□ 基本的な生活習慣の確立

- ・時間を守る、ルールを守る、あいさつをする等の基本的な生活習慣の確立は、すべての教育活動の基盤にあると思う。学校と家庭がしっかり連携する必要がある。
- ・集団を育成するという視点も大切である。自主自律の育成には、生徒会活動や集会指導の充実が望まれる。定例の前期課程の集会を継続してください。
- ・思春期6年間は心身共に大きく成長する時期である。前期課程と後期課程では対応が変わってくる。発達段階に応じた指導が望まれる。
- ・特に前期課程の中学生の生活指導をしっかりやることが、後期課程につながっていくと思う。ルールを守るといふ規範意識の醸成が不可欠である。規則は強制されるものではなく自らまもるべきものであるということを教えて欲しい。
- ・今年度から中学校は道徳が教科化されたが、子どもたちの様子はどうか。豊かな人間性を育てるために、しっかり取り組んで欲しい。

<p>感を生み出し大いに盛り上がった。また、本校唯一のクラス対抗の行事、コーラスコンクールを昨年度から 11 月に実施し大きな成果を挙げた。今後、生徒数減少に伴う行事の見直しや精選が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての教育活動を通して社会性や協調性を育てるために、様々な教育活動をキャリア教育の視点から見直す必要がある。現在行われている教育活動が単発ではなく有機的な繋がりをもつように、部署間で連携し、横断的に内容を検討する必要がある。 学問探究団「RYS」の取り組みは、生徒が実際に社会と触れることで、将来のイメージが膨らみ、学習意欲も向上するという成果を上げている。 1, 2年生の土曜講座、イングリッシュキャンプ等のプログラムは4年目である。事後のアンケートでも生徒の満足度も高く定着してきた。土曜講座は企画立案を各部署にゆだねて取り組んでいる。 <p>□ 保護者への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の様子を保護者へ情報発信していくことや連携をしっかりと丁寧に対応していくことが信頼関係を築いていくうえで大切な要素となってくる。保護者アンケートの「ホームページの充実」についての問いに対し、前期課程ではタブレットを活用し配布文書を発信している関係もあり 70%近くが肯定回答であった。タブレットの活用は、今後有効なツールとなると考えられる。同時に、ホームページや公式 Facebook を一層充実させ、学校の様子・生徒の活躍している姿をタイムリーにわかりやすく伝える工夫をする必要がある。 保護者アンケートの「担任は相談しやすく誠実に対応してくれる」という問いに対し、今年度も 80%近い肯定回答があった。規模の小さな学校で、教員と生徒の関係は非常に重要であり、創立当初より教員と生徒の距離が近いことが特色の一つである。まだまだ十分ではないが、一人一人の生徒の心に寄り添う指導を推進し、生徒の満足度が高まるよう努力を続ける必要がある。 <p>□ 危機管理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度の大阪北部地震や西日本豪雨、また台風等により大きな災害が多発している。常に、危機管理体制に万全を期すことが求められる。 学芸高校、同附属中学校との合同避難訓練を通して集団で避難するときの心構えを伝えた。また、3年生は住吉消防署の協力を得て防災訓練を実施した。 本校は大和川の南からの通学者が約 30%在籍し、豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難になる生徒が多く出ることも予想される。各自が防災セットを購入し教室に保管している。 	<p>□社会性・協調性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒数が減っていくが、全校で取り組む中等祭やコーラスコンクールなどの学校行事を工夫し、縦のつながりである異学年交流を充実させて欲しい。 「RYS」や「ESD」の取り組みを通じ、自分の将来を見据えたキャリア教育の視点を持って、進路獲得に向け努力して欲しい。 ボランティア活動は、社会性や協調性の育成に大変有効である。参加する生徒を多く育ててください。 <p>□保護者への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで「担任は誠実に対応してくれる」という問いの肯定回答が 80%近くある。より一層、丁寧な対応を心掛けて欲しい。 ホームページがタイムリーに更新されているので、学校での様子がよくわかる。 iPad を使った保護者への文書配信は有効であると思う。ホームページやSNSの活用は時代の流れだと思うが、直接会って顔を見て話をする機会も大切であることを常に念頭に置いてほしい。 <p>□危機管理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段から、生徒たちの防災に対する意識を高めることが必要である。 これだけ大きな災害が多発している。常に、こどもの安全を第一に考え、危機管理体制は常に万全を期すことが求められる。
---	--

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
学力向上と進路実現	1. 学力向上と進路実現に向けた取り組みの強化	本校は創立当初より国公立大学・有名私立大学の合格をめざし、6年間でしっかり学力を身につけさせるよう教育実践を行ってきた。教員が授業力を向上させ、生徒の意欲を向上させる学習指導を行う必要がある。	(1) 授業アンケート「意欲度」の指数(肯定回答-否定回答)を60%以上にする。	生徒のやる気を引き出し、「わかる喜び、学ぶ楽しさ」を実感できる授業づくりが大切である。そして、生徒がしっかりと目標を持ち、6年間で確かな学力を身につけることが、自らの進路実現につながっていく。 ○アンケート1「あなたにとって先生の授業は意欲的に取り組める授業ですか」の指数 (授業アンケート2回目)	
	(1) 生徒の授業満足度を上げる。	(1) 学力向上のために「わかる授業」を生徒たちに保障する。			前期課程：全体 70% 1年 63% 2年 70% 3年 77% (1年前) (63% 75% 72% 45%) 後期課程：全体 68% 4年 71% 5年 70% 6年 65% (1年前) (57% 70% 56% 49%)
	(2) 自学自習の態度を育成し、意欲的に学習する姿勢を身につけさせる。	(2) 多様な進路希望に対応した学習指導を充実する。			全ての学年で、評価指標の60%を上回っている。1回目と比べると、前期課程も後期課程も、±2ポイントの差でどの学年もあまり差異は見られない。しかし、前年度と比較すると大きく差がある。前期課程では7ポイント上がり、後期課程では9ポイント上がっている。特に、3年生は大幅な上昇がみられる。一人一台のタブレットを導入した最初の学年で、それを活用した授業展開が生徒の意欲向上の要因となっている。生徒のコメントにも、ICT機器を使った授業に興味関心を引くという内容が多く見られた。また、6年生も大幅にポ
	(3) 希望する進路を実現させる。	(3) 6年間系統立てた進路指導を実践する。			

学 力 向 上 と 進 路 実 現			<p>(2) 授業アンケート「学力向上度」の指数（肯定回答－否定回答）を40%以上にする。</p>	<p>イントが上昇している。大学受験が近づき気持ちが不安定な時期もあったが大半が進路に向けて意欲的に取り組んでいる。</p> <p>教科によって差異はあるので、常に生徒の学習状況を把握し、個別指導を充実させる努力が必要である。</p> <p>○アンケート2「先生の授業をうけることで、あなたの学力や知識に変化を感じましたか」の指数 (授業アンケート2回目)</p> <table border="1"> <tr> <td>前期課程</td> <td>全体 49%</td> <td>1年 40%</td> <td>2年 35%</td> <td>3年 70%</td> </tr> <tr> <td>(1年前)</td> <td>(42%)</td> <td>58%</td> <td>47%</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>後期課程</td> <td>全体 54%</td> <td>4年 56%</td> <td>5年 55%</td> <td>6年 53%</td> </tr> <tr> <td>(1年前)</td> <td>(43%)</td> <td>46%</td> <td>46%</td> <td>38%</td> </tr> </table> <p>昨年度に比べ、前期課程で7ポイント、後期課程で11ポイント上昇しており、全体として目標値をクリアしているが、2年生が下回った。教科により大きな差異があり、特に数学が低い指数を示している。</p> <p>また、1回目に比べると、前期課程は12ポイント下がり、後期課程は1ポイント上がっている。特に1・2年生が大幅に下がっている。早い時期からつづきを見つけ、継続した指導が望まれる。</p>	前期課程	全体 49%	1年 40%	2年 35%	3年 70%	(1年前)	(42%)	58%	47%	26%	後期課程	全体 54%	4年 56%	5年 55%	6年 53%	(1年前)	(43%)	46%	46%	38%
	前期課程	全体 49%	1年 40%	2年 35%	3年 70%																			
	(1年前)	(42%)	58%	47%	26%																			
	後期課程	全体 54%	4年 56%	5年 55%	6年 53%																			
	(1年前)	(43%)	46%	46%	38%																			
		<p>(3) 授業アンケート「理解度」の指数（肯定回答－否定回答）を65%以上にする。</p>	<p>○アンケート3「先生の授業（説明や指示）はわかりやすいですか」の指数 (授業アンケート2回目)</p> <table border="1"> <tr> <td>前期課程</td> <td>全体 72%</td> <td>1年 66%</td> <td>2年 71%</td> <td>3年 78%</td> </tr> <tr> <td>(1年前)</td> <td>(67%)</td> <td>82%</td> <td>65%</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>後期課程</td> <td>全体 70%</td> <td>4年 69%</td> <td>5年 74%</td> <td>6年 68%</td> </tr> <tr> <td>(1年前)</td> <td>(60%)</td> <td>72%</td> <td>59%</td> <td>57%</td> </tr> </table> <p>全ての学年で、評価指標の60%を上回っている。1回目の指数は前期課程47%、後期課程68%で、ともに上昇している。</p> <p>前期課程の段階で基礎学力をしっかりと定着させることが後期課程での理解度につながっていく。ICT機器を大いに活用した、興味・関心を引く授業づくりが成果を挙げつつある。今後も教科会議を充実させ、授業づくりの研修を深めなければならない。</p>	前期課程	全体 72%	1年 66%	2年 71%	3年 78%	(1年前)	(67%)	82%	65%	55%	後期課程	全体 70%	4年 69%	5年 74%	6年 68%	(1年前)	(60%)	72%	59%	57%	
前期課程	全体 72%	1年 66%	2年 71%	3年 78%																				
(1年前)	(67%)	82%	65%	55%																				
後期課程	全体 70%	4年 69%	5年 74%	6年 68%																				
(1年前)	(60%)	72%	59%	57%																				
		<p>(4) 保護者アンケート「進路指導」の肯定回答を60%以上とする。</p>	<p>○アンケート4「進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分寄与している」の肯定回答した保護者</p> <table border="1"> <tr> <td>全体 50%</td> <td>(前年 52%)</td> <td>1年 42%</td> <td>2年 38%</td> </tr> <tr> <td>3年 51%</td> <td>4年 51%</td> <td>5年 53%</td> <td>6年 58%</td> </tr> </table> <p>どの学年も評価指標に届いていない。例年のように、学年が上がるにつれて肯定回答が増える傾向が見られるが、学年により差異がみられる。前期課程の「わからない」という保留回答は1年19%、2年23%、3年24%で高いポイントを示している。</p> <p>前期課程の早い段階から保護者に対しても有効な進路関係の情報を提供していく必要がある。生徒についても大学受験を意識づけると共に、これからの社会を見据え、将来の目標を意識できるよう、「RYS」「ESD」などの取組みを充実させる必要がある。</p>	全体 50%	(前年 52%)	1年 42%	2年 38%	3年 51%	4年 51%	5年 53%	6年 58%													
全体 50%	(前年 52%)	1年 42%	2年 38%																					
3年 51%	4年 51%	5年 53%	6年 58%																					
		<p>(5) 「管理自習室」の利用を促進する。</p>	<p>○自学自習の習慣を身に着けることを目的に「管理自習室」を開設している。3年間の推移は、</p> <table border="1"> <tr> <td>開設日数</td> <td>237日→221日→212日</td> </tr> <tr> <td>のべ利用者数</td> <td>4533名→5364名→5075日である。</td> </tr> </table> <p>のべ利用者数が下がっているが、3月に開設できなかったのが原因で、横ばいであると考えられる。全体の生徒数は減少しているため、自学自習の習慣が定着しつつある生徒が増えてきていると考えられる。また、管</p>	開設日数	237日→221日→212日	のべ利用者数	4533名→5364名→5075日である。																	
開設日数	237日→221日→212日																							
のべ利用者数	4533名→5364名→5075日である。																							

				理自習室でノートPC「Chromebook」を活用し、サテネットやスタディサプリの動画で学習する生徒も多い。														
基 本 的 生 活 習 慣 の 確 立	2. 規律ある学校生活の確立 (1) 規範意識と自律性の醸成 (2) 集団育成および人間関係の構築	思春期の中高6年間を本校で過ごす中で、子どもから大人へ大きく成長する過程が見られる。身体も心も大きく成長する時期である。集団の中で規範意識を高め、人間関係を構築する態度を身に着けさせる。 常に教員は生徒の心に寄り添い、公平な目で生徒を指導できるようにする。また、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーション能力を育成する。 教室の環境整備は学級経営に欠かせないもので美化意識の向上に努める。 (1) ガイダンスに定められた事項をきっちり守れるよう、常に意識をさせる。ルールに沿って学校生活が円滑に進むよう指導する。 (2) 「いじめ事象」に関しては、いじめ防止対策委員会を組織する。いじめアンケートを実施することで、「いじめ」を抑止するとともに「いじめ事象」には担任だけでなく、教職員全体の問題として取り組む体制をつくる。 (3) 教室の学習環境を整備するため、清掃・美化活動を徹底する	(1) 保護者アンケート「生徒指導」の肯定回答を60%以上にする。 (2) 個々の生徒理解に努め、学校生活に対する生徒の満足度を高める。 (3) 保護者アンケート「公平な対応」の肯定回答を80%以上にする。 (4) 教室の環境整備に努める。	学校全体が落ち着いた雰囲気では規律性を保っていないと、目標の達成にはならない。その中で、集団育成の視点を持ち、授業規律を徹底させることが大切である。 ○アンケート1「生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分な成果を挙げている」の肯定回答をした保護者 <table border="1"> <tr> <td>全体53% (前年58%)</td> <td>1年42%</td> <td>2年62%</td> </tr> <tr> <td>3年56%</td> <td>4年64%</td> <td>5年52%</td> <td>6年47%</td> </tr> </table> 全体として5ポイント下がっている。どの学年も2割近い保留回答がある。各学年ともに習熟度別クラス編成なので学習意欲に違いが見られるが、全般に落ち着いた学習環境の維持が出来つつあるが、生徒指導体制を再度点検し見直す必要がある。 特に前期課程では毎週月曜日に集会を行っており一定の成果を挙げているが、普段の学校生活の中で生徒のコミュニケーション力や問題解決力を高めていく必要がある。 ○定期的に担任との二者面談を行うとともに、いじめアンケートを学期に1回実施し、生徒理解に努めている。相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーション能力を育成し、言葉の行き違いから「いじめ事象」に発展しないよう、考えて行動する習慣の確立をめざす。また、学級で起こる様々な問題について生徒に考えさせ、クラス全体でいじめ防止に取り組みさせる指導も大切である。「いじめ事象」が発生した場合は、いじめ防止対策委員会で協議し厳格に対応していく。今年度はかいさいしていない。 日々の教育実践を通じて、生徒と教員との信頼関係を構築し、生徒がいじめ等の悩みを打ち明けやすい雰囲気づくりに努める。人間関係で不安を持っている生徒に対しては、学校カウンセラーと対処している。 ○アンケート2「担任は相談しやすく誠実に対応してくれる」の肯定回答をした保護者 <table border="1"> <tr> <td>全体75% (前年82%)</td> <td>1年75%</td> <td>2年87%</td> </tr> <tr> <td>3年76%</td> <td>4年84%</td> <td>5年61%</td> <td>6年73%</td> </tr> </table> この質問は例年高い数字を示し高評価を得ているが、今年度は昨年より7ポイントさがり、全体の結果として目標値に届いていない。特に5年生が大きく下回っている。一部担任との軋轢が原因であると思われる。生徒と教員との信頼関係は生徒指導の根幹をなすものである。そして生徒指導の第一歩は生徒理解である。学校生活において、二者面談を始めきめ細かい声掛けが功を奏していると思われる。本校は生徒と教員の距離が近く、アンケート結果から概ね関係は良好のようである。今後も教員が分け隔てなく生徒に接するとともに、生徒の心に寄り添う指導を進めていく。 ○学習環境の確保は規律ある学校生活を送る上で欠かすことはできない。落ち着いた学習する上で、教室の美化を常日頃から心掛けないといけない。掲示物、私物の整理など日々学級で指導を行っているが、学年が上がるにつれ、美化の意識が下がっているように思われる。美化意識を高める取り組みが必要がある。	全体53% (前年58%)	1年42%	2年62%	3年56%	4年64%	5年52%	6年47%	全体75% (前年82%)	1年75%	2年87%	3年76%	4年84%	5年61%	6年73%
	全体53% (前年58%)	1年42%	2年62%															
3年56%	4年64%	5年52%	6年47%															
全体75% (前年82%)	1年75%	2年87%																
3年76%	4年84%	5年61%	6年73%															
3. 社会性・協調性の育成		(1) ボランティア活動に参加を促す。	○セレッソ大阪のホームゲームでのボランティア活動を行い、またサポーターティングマッチでは「ユニクロ服のカプロジェクト」を昨年度に引き続き実施し、取り															

<p>社会性・協調性の育成</p>	<p>(1) ボランティア活動への積極的な参加 (2) 行事の精選 (3) 部活動を含む課外活動の充実</p>	<p>(1) 地域貢献活動やボランティア活動に取り組み、豊かな社会性の育成を図る。 (2) 部活動や学校行事に関しても、様々な活動を通して生徒の協調性を高める。</p>	<p>(2) 学校行事を通して生徒の協調性を高めていく。 (3) 部活動に関しては工夫して活動する。</p>	<p>組みの拡充を図った。また、RYS の取組みで例年参加している大阪マラソンのボランティアは審査前なので参加を見送った。 ○6月上旬に2日連続で開催して中等祭(体育祭や文化祭)は、生徒会を中心に新しい企画も行いスムーズな進行ができた。また、唯一のクラス対抗の行事であるコーラスコンクールを11月に実施した。例年通りクラスで練習に取り組み大いに盛り上がった。生徒の協調性を育むべく、他の行事や取組みも事前・事後指導を丁寧に行った。反省をしっかりと行い次年度に活かしていきたい。募集停止の関係で行事の在り方について、更なる精選が必要である。 ○部活動は、原則週3日間という限られた時間・施設の中での活動ながら、校外の公式戦にも積極的に参加している。生徒のニーズに応えるため昨年発足させたダンス・将棋・書道同好会は、順調に活動している。</p>
<p>保護者に信頼される学校づくり</p>	<p>4. 積極的な情報発信と保護者との連携 (1) 保護者との信頼関係の構築 (2) 進路情報などの積極的な情報発信 (3) 防災への取り組み</p>	<p>私立学校は校区を持たないため、保護者への情報発信が信頼関係を築いていくうえで大切な要素となる。 防災訓練等の安全生活に対する取り組みも緊急の課題であるという認識が必要である。 (1) ホームページの充実およびタイムリーな情報発信 (2) 保護者との連携強化 (3) 防災意識の向上</p>	<p>(1) 保護者アンケート「情報発信」の肯定回答を80%以上にする。 (2) 保護者アンケートの「この学校に入学させてよかった」という満足度を70%以上とする。 (3) 防災意識を向上させる</p>	<p>学校の様子をタイムリーに情報発信することを心掛け、保護者の信託に応えた学校づくりをしていくことが大切である。 ○アンケート1「学校のHPは充実しており必要な情報を得ることができる」の肯定回答をした保護者 全体66% (前年74%) 1年61% 2年68% 3年68% 4年60% 5年61% 6年63% 全体として昨年度より8ポイント下がっている。頻繁にHPを更新しているが、タイムリーな様子は公式Facebookでも発信していることもあり、頻度や内容は例年比で乏しかったように思われる。 前期課程では、配布文書を紙媒体ではなく、すべてタブレットを通して送信している。また、45年生もClassiを活用してペーパーレスで配信している。 授業参観や保護者会を1・2学期に1回ずつ設定し、また個別に3者面談を学期に1回開催している。さらに新しい情報を発信するよう努め、保護者に周知する仕掛けが必要である。 ○アンケート2「入学させてよかったと思う」の肯定回答した保護者 全体60% (前年53%) 1年68% 2年60% 3年59% 4年48% 5年64% 6年63% 昨年度より7ポイント上がっている。募集停止の関係で、(知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい)という文言を削除したことも関係していると思われる。 在校生がすべて卒業するまで、さらに丁寧な対応が必要である。教育課程や学習指導・進路指導・生活指導等すべての教育活動において、生徒や保護者の満足度を高めていく取組みを進める必要がある。 ○ここ数年、大阪北部地震、西日本豪雨、台風等により、大きな災害が多発した。常に、危機管理体制に万全を期すことが求められる。防災への取り組みは、集会やクラスでの防災講話を行い、全体として高校・附属中との合同避難訓練の他、3年生が住吉区役所や住吉消防署と連携し防災研修を毎年行っている。今後一層、公的な機関とも連携を図る必要がある。また、本校は大和川以南からの通学者が約30%在籍している。豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難になる生徒が多く出ることも予想され、各自が入学時に防災セットを購入し卒業まで教室に保管し、有事に備えている。</p>